

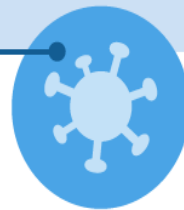


今年に入って、沖縄県では新型コロナウイルス感染症に罹る人が多くなっており、本校でも陽性者が出ている状況です。

学校における感染症対策は、変異株であっても従来と同様です。基本的なことをこれまでどおり行いましょう。

○3密の回避 ○会話時のマスク着用 ○手洗いなどの徹底 ○換気の徹底

オミクロン(B.1.1.529)



オミクロンについて現在の限られた情報から分かってきたこと

ヒトへの感染力の強さや伝播性の上昇
発症までの期間が短い

- ・今までより短期間に広がる

多くの変異個所がありワクチンの効果へ影響

- ・ワクチンの効果を弱める「免疫逃避」がある
- ・発症予防効果は2回接種では低く、3回接種で発症予防効果は75%(ファイザー)
- ・重症化予防はある程度保たれる見込み

個人の対策



3密を回避



マスクをしっかりとつける



ワクチンの接種

国の対策

水際と国内対策の再強化

3回目の接種を進める

2021年11月に初めて確認された新たな変異ウイルスで、WHOが「懸念される変異ウイルス」に指定しています。感染が急速に広がっていることから、デルタ変異ウイルスよりも感染しやすい可能性があると考えられています。

ワクチンの有効性や治療薬の効果などはまだ不明ですが、変異ウイルスへの対策としては、3つの密を避ける、マスクを着用するなどの基本的な対策をこれまでどおりしっかりと続けることが大切です。

基本的対策は今までと変わらずに

人が多い場所では不織布マスクにしませんか？

不織布マスクは、布マスクやウレタンマスクよりも効果が高いことが示されています。






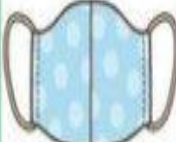





マスク着用の主な目的は、会話や咳による飛沫の飛散や吸い込みを防ぐこと。近年の研究では、飛沫を出す側と吸い込む側、両者の距離感やマスクの着用状況、マスクの素材（性能）によっても、防御効果に大きな違いが生まれることがわかっています。

たとえば、スーパーコンピューター「富岳」によるシミュレーションの結果によれば、マスクの捕集効率は、布製やウレタン製よりも、不織布素材の方が高いことが示されています。また、鼻の部分に金具がある場合は、折り曲げて鼻に沿って着用するなど、すき間のないよう顔にフィットさせた方が効果が高いことが示されています。

「体調の悪いとき」「医療機関に行くとき」「人ごみにいるとき」には不織布マスクを着けましょう。

* 沖縄県では、できるだけ不織布マスクを着用するよう推奨しています。

■ マスクやフェイスシールドの効果 (スーパーコンピューター「富岳」によるシミュレーション結果)

対策方法	なし	マスク			フェイスシールド	マウスシールド
						
		不織布 	布マスク 	ウレタン 		
	吐き出し飛沫量					
	100%	20%	18-34%	50% ^{*2}	80%	90% ^{*2}
	吸い込み飛沫量					
	100%	30%	55-65 ^{*2}	60-70% ^{*2}	小さな飛沫に対しては効果なし (エアロゾルは防げない)	